縄文時代の住居跡から大形の中空土偶を発見

秦野市　菩提横手（ぼだいよこて）遺跡

●土偶とは縄文時代にヒト(あるいは精霊)の形に似せて作った焼物（土製品）で、神奈川県内でも縄文時代中期～後期のものを中心に多数の出土があります。

●今回発見されたのは高さ 25 センチ、幅 12 センチ（推定）という大形の土偶です。内部が空洞になった「中空土偶※」で、縄文時代後期中葉(約 3,500 年前)の住居跡から出土しました。

●発見された土偶は左足の一部と左腕が欠けていましたが、それ以外の部分はよく残っていて、土偶全体の姿がよくわかります。

　後頭部には突起がつけられ、胸の部分には「乳房」を表現したと見られるコブがつけられていました。胴は筒型で、正面と側面には貫通した穴があいています。足は胴よりもおおきく幅広で、この土偶は自立が可能です。

※内部が空洞の土偶を「中空土偶」、詰まったものを「中実土偶」といいます。

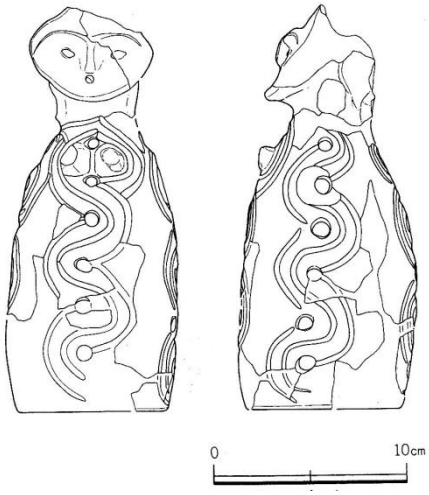
後期　中空土偶

相模原市川尻中村遺跡
中期　土偶

ぼくたちのモデルになった[鉢巻き土偶](下写真・相模原市川尻中村遺跡出土)は中期後半(およそ 4,500 年前)の「中実土偶」なんだ。高さは 12 センチだから上の土偶とくらべるとずいぶん小さいね。

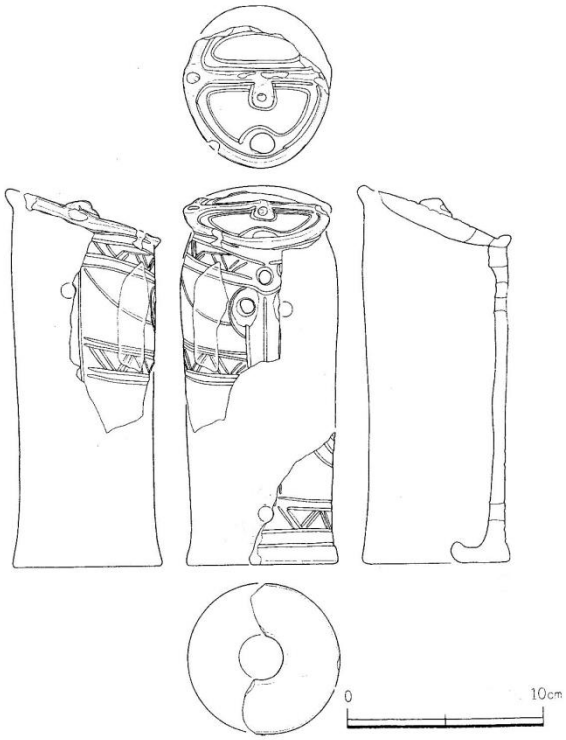
●縄文時代後期前葉の神奈川県では筒型の胴にお面のような頭部を貼りつけた筒型土偶（右下図）がさかんに作られていました。今回発見された土偶はこの筒型土偶に「手足」をつけたような形状をしています。もしかしたら、同じ時代の「手足のある土偶」をつくっていた地域との交流の中で生まれたものかもしれません。※※

※※日本大学鈴木保彦先生・東海大学秋田かな子先生のご教示によります。



横浜市稲荷山貝塚　　後期　土偶
（筒型土偶）

後期　中空土偶　側面から



横浜市稲荷山貝塚　　後期　土偶
（筒型土偶）